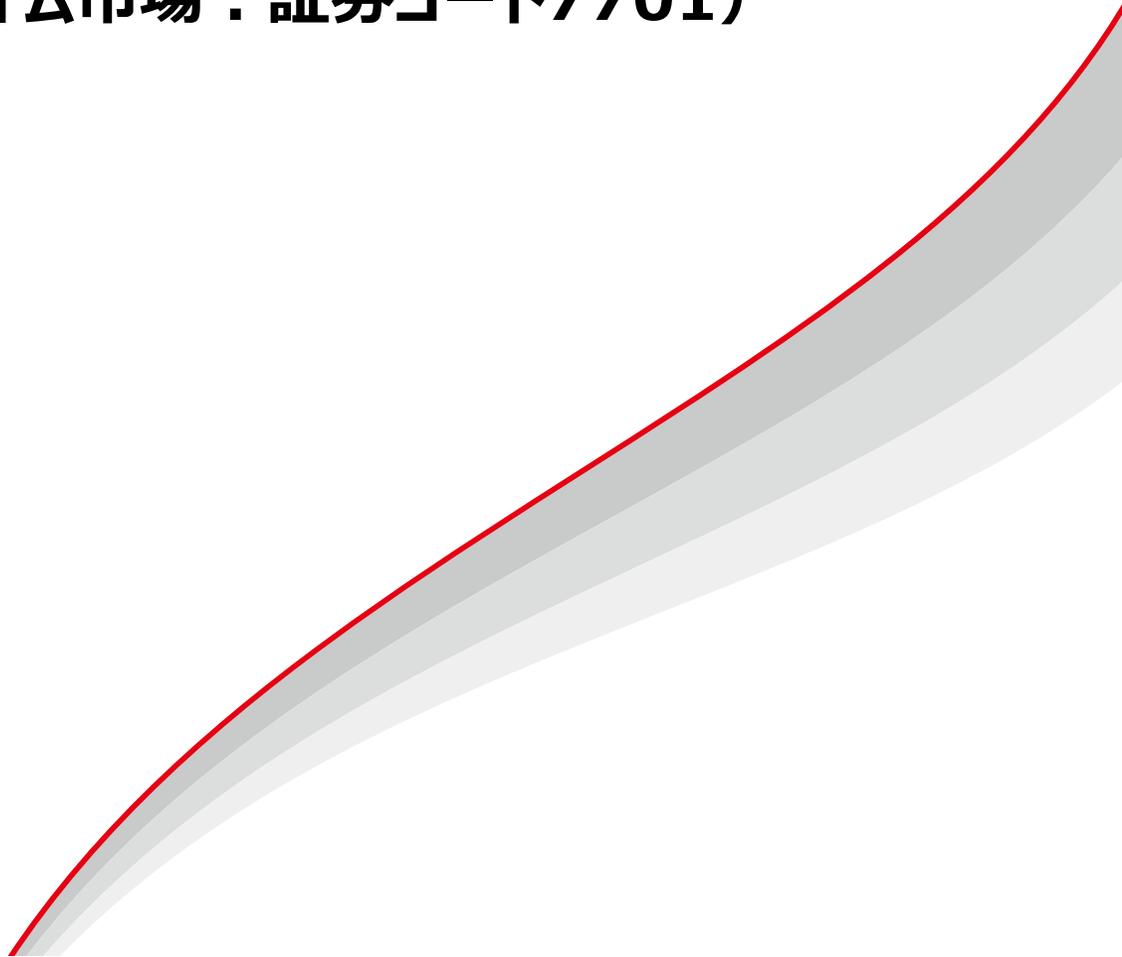


西村証券草津支店 IRセミナーご参加のみなさまへ

株式会社島津製作所のご紹介（東証プライム市場：証券コード7701）

2026年2月24日

コーポレート・コミュニケーション部IRグループ



① 会社概要

① 会社概要
会社概要

商 号 株式会社 島津製作所 Shimadzu Corporation

創 業 明治8（1875）年3月

資 本 金 約266億円

従 業 員 連結14,481名
(2025年3月31日現在)



島津のDNA



初代 島津源蔵

【創業当時のカタログ巻末の言葉】

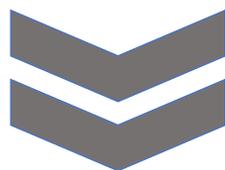
「御好次第何品ニテモ製造仕候也」
ご希望に応じて
どんな品物でも製造いたします



二代 島津源蔵

【二代 島津源蔵の言葉】

学問を教えられたら
その応用を考えなくてはならない、
死に学問ではだめだ



科学技術で社会に貢献する

① 会社概要

社会貢献の歴史（1）

文明開化

- ▶ 海外の近代科学の導入
- ▶ 近代的な生活様式への変化

戦後からの復興

- ▶ 医療基盤の整備と量的拡充
- ▶ 石油・化学産業の発展

1875
京都の
木屋町二条に創業

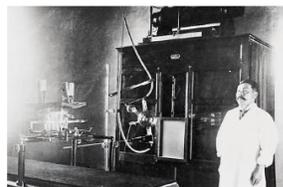
理化学器械の普及・発展

1882
最先端の教育器械を提供



医療機器の発展・普及

1909 **日本初**
医療用X線装置を完成



1917
設立（株式会社化）

放射線の被ばく低減

1961 **世界初**
遠隔操作式X線TV装置を開発



安定的な電力供給の必要性

1897
蓄電池の製造を開始



石油産業の発展

1956 **日本初**
汎用ガスクロマトグラフの
商品化に成功



① 会社概要

社会貢献の歴史（2）

高度経済成長

- ▶ 自動車産業の発展
- ▶ 健康保険制度の充実による医薬品産業の発展

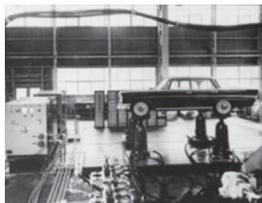
QOLの向上

- ▶ 健康寿命を延ばす科学技術の振興

自動車の安全性向上

1967

疲労試験機1号機を製造
自動車メーカーに納入



臨床検査医学の進展

2010

国産初ハイエンドの
液体クロマトグラフ
質量分析システムを開発

日本初



乳がん診療・認知症研究を 支える

2021

頭部と乳房の検査に特化した
TOF-PET装置を開発

世界初



医薬品の安全性・有効性

1978

モジュラー構造の
液体クロマトグラフ完成

日本初



COVID-19の感染拡大

2020

全自動リアルタイム
PCR検査装置 及び
新型コロナウイルス
検出試薬キットを開発



食と健康のイノベーション創出

2023

業界最小クラスの
ガスクロマトグラフ
質量分析システム
を開発



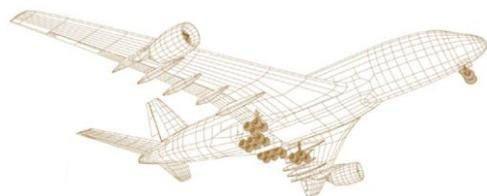
① 会社概要

現在の事業セグメント

インダストリー

航空機器事業

7%



最先端の搭載機器を提供し、「安全・快適・負担軽減」に役立っています。

インダストリー

産業機器事業

13%



ターボ分子ポンプ

高性能なキーコンポーネントで最先端のものづくりを支援し、産業の発展に役立っています。

ヘルスケア

GX・マテリアル

インダストリー

計測機器事業

65%



高速液体クロマトグラフ質量分析システム

高性能な分析機器を提供し、医薬・食品・素材をはじめ様々な分野で研究や技術開発、品質管理を支援しています。

ヘルスケア

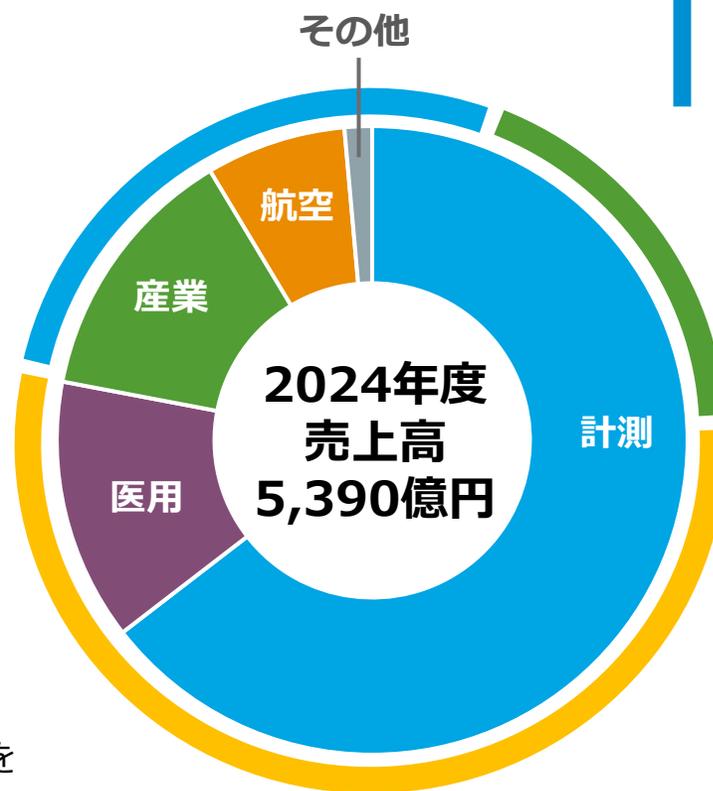
医用機器事業

14%



血管撮影システム

的確な診断を支援する医用機器を提供し、人の健康の維持・向上に貢献しています。



① 会社概要 海外拠点

販売・サービス体制

- 地域統括
- 販売・サービス



製造・研究開発体制

- アプリケーション開発
- 製造
- 研究・開発

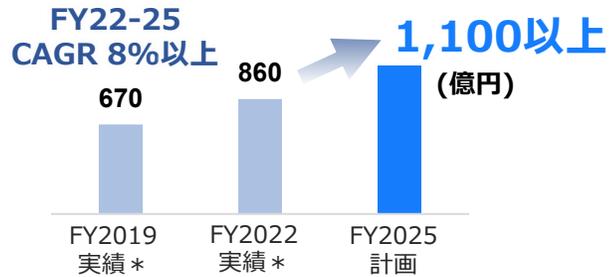


① 会社概要

海外事業の拡大

中国

- ・開発～製造までの一貫体制を構築
- ・成長路線の維持



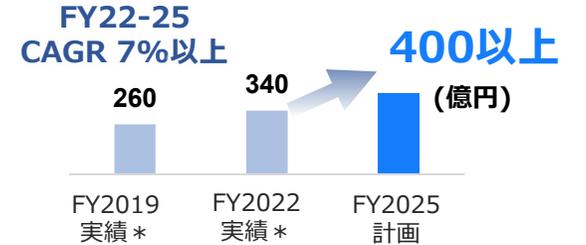
北米

- 最重要地域
- ヘルスケア領域の拡大
- FDA・USPへの対応力を強化



アジア (韓国・台湾・東南アジア)

- ・当社シェア拡大に向け、販売力強化
- ・半導体市場向け製品拡販



欧州

- ・GX領域と臨床市場の強化
- ・新規市場を開拓



臨床メディカル
規制連携

製薬分野における
規制連携

インド

- ・製薬市場の強化
- ・米国FDA、USP対応力強化



地域別売上高 (億円)

* FY2019実績、FY2022実績は 1ドル120円、1ユーロ130円換算

② ヘルスケア領域
-“人の命と健康”への貢献-

② ヘルスケア領域-“人の命と健康”への貢献- 北米R&Dセンター強化

- 当社の強み：
お客様と共に新たな価値を創造する開発力



- 北米の製薬、臨床市場のお客様との共同開発強化
- ✓ ボストンおよびサンフランシスコエリアに拠点を設立
- ✓ 大手製薬・CDMO・受託分析企業と共同で課題解決

北米R&Dセンター

- 2035年までにR&Dセンター開発品で\$500M以上の売上寄与を目指す

メリーランド本部（コロンビア、MD）

- 機械設計、ソフト開発等開発のグローバル連携拠点

東海岸拠点（ボストン近郊、MA）

- アカデミアや製薬研究開発部門
バイオエンジニアリング企業 が多数集積
- 大学研究者と新規MS技術の研究開発推進

西海岸拠点（サンフランシスコ近郊、CA）

- 製薬企業の開発や製造拠点
バイオテックカンパニー
ラボオートメーションの関連企業 が多数集積
- 企業研究者、大学と新規技術の研究開発推進

製薬/臨床関連企業など



アジャイル開発



ボストンラボ

顧客拠点との密接な連動に向けて市街中心部に「ボストンラボ」を開所

◆ 現在進行しているテーマ数

現在**16**件（ほぼ製薬市場向け）
既存市場拡大：8件
新規市場開拓：8件

◆ 公開できる主な内容

- ・新規オンライントラップカラムの要素開発
 - ・ラボオートメーション用インターフェースロボットの要求仕様検討
 - ・PFAS向けLCMS/MS (XE) の評価
- ・多検体処理用途のQXシステム改良



Nexera QX Multiplex System

② ヘルスケア領域-“人の命と健康”への貢献- 臨床MSソリューションセンターを設立

- ドイツと日本の2拠点体制で「臨床MSソリューションセンター」と試薬キット・ミドルウェア*を手掛けるSCHD*を設立
- リキッドバイオプシーを活用した「臨床事業」をグローバル展開。昨年度15億円の事業規模を数年後に100億円以上へ

臨床診断市場規模



CAGR10%

数十億
ドル

地域別

主要市場 : 北米、欧州
今後の成長市場 : アジア、特に
中国やインド

うちLCMSプラットフォームの市場

500MUSD/2023年



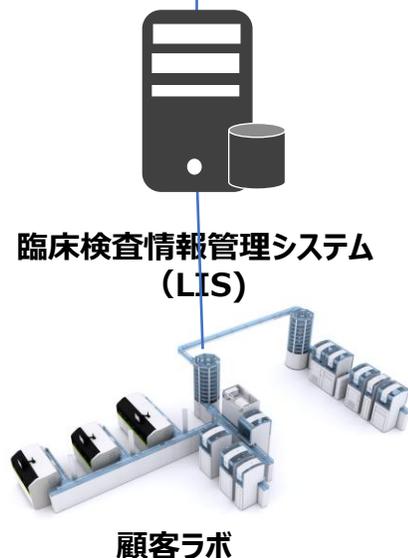
2031年には約10倍

臨床事業モデル (MSを中心とするハードウェア+ミドルウェア+試薬キット)

ハードウェア



ミドルウェア SCHD



試薬キット

- ・島津ダイアグノスティクス
- ・SCHD
- ・レシピ社 など



島津の強み、差別化



CLAM + LCMS

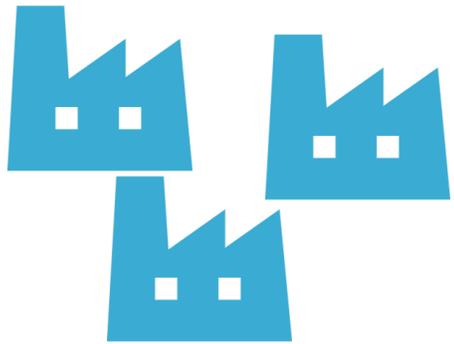
- ① 質量分析システムを保有
- ② 専用の血液自動前処理装置を保有
- ③ 試薬の開発機能を保有

*ミドルウェア：機器のソフトウェアとLISを接続する中間ソフトウェア

*SCHD (Shiamdzu Chemistry and Diagnostics SAS)：2025年4月に、安定同位体試薬とLCMS向け試薬キットを手掛けるAlsachim社と、ミドルウェアとMALDI向け試薬キットを手掛けるBiomaneo社のグループ会社2社を統合して設立。

成長著しいインド市場で主力製品（LC）のシェアNo.1

- 製薬市場で高いシェア：液体クロマトグラフ シェアNo.1
- ジェネリック医薬品の品質管理向けに、お客様の声を反映した使いやすく、省スペースの高性能製品を投入
- 製薬企業で重視されるデータ管理の負担をネットワーク構築で解決



薬の生産量増加により
品質管理の需要増加



一体型液体クロマトグラフ
i-Series

薬の品質管理に
特化した製品を投入

- ・製薬企業向けに豊富な製品ラインナップを活かした
トータルソリューションを提供
- ・分析データ管理ソフトウェア (LabSolutions) による
ネットワーク構築で、安全なデータ管理と効率化を実現



液体クロマトグラフ

インドシェア1位：**40%**

* 台数ベース * FY2024時点

Ref : Import Custom Clearance Statics



インドの中長期に向けた戦略的重点施策①

SHIMADZU
ANALYTICAL
INDIA PVT LTD

SAIP

ガバナンス強化



メドテック事業強化

SHIMADZU
MEDICAL
INDIA PVT LTD

SMIP



インドの中長期に向けた戦略的重点施策②

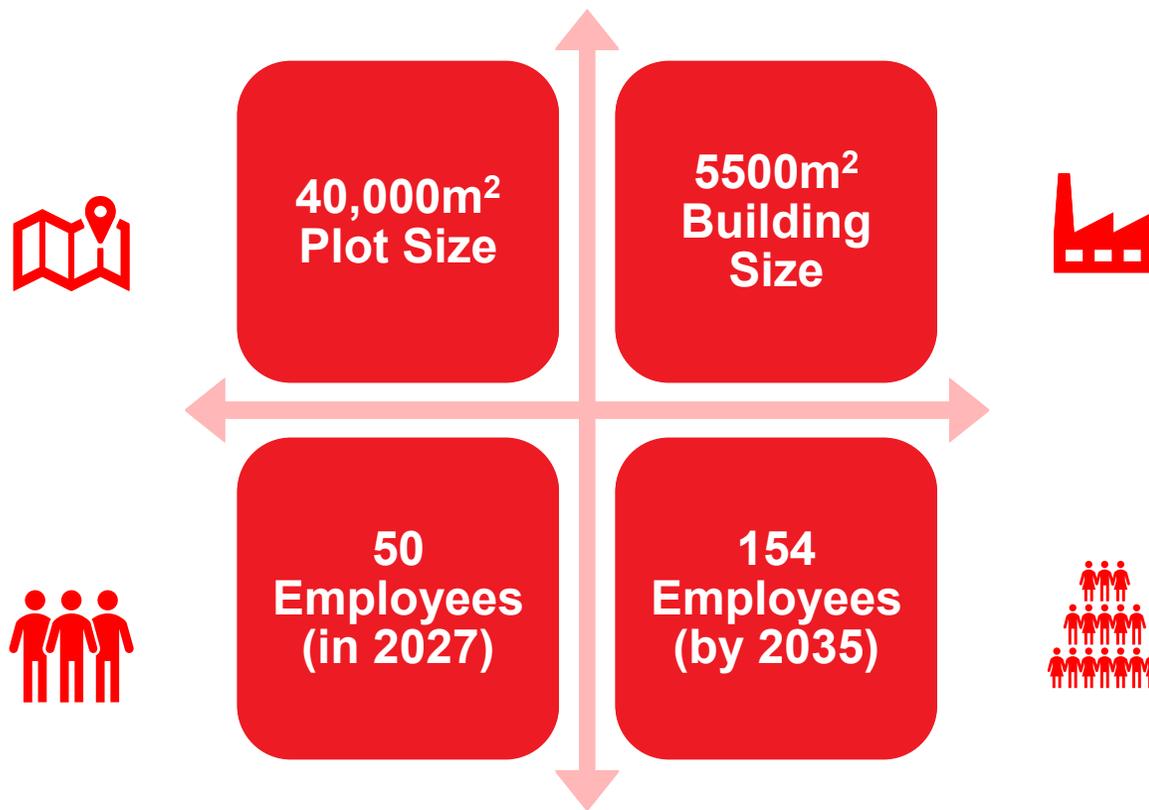
MAKE IN INDIA



建設開始: 2026年度
稼働開始: 2027年度

Shimadzu Manufacturing India Pvt. Ltd. (SMI)

インド・カルナータカ州 ベンガルール (空港付近)



インドでの需要増と現地ニーズへの対応

③ **インダストリー領域**
-“産業の発展、安心・安全な社会の実現”への貢献-

③ インダストリー領域-“産業の発展、安心・安全な社会の実現”への貢献- 半導体産業を支える真空技術

- ターボ分子ポンプの成長とともに、過去5年で産業セグメントの営業利益は2倍以上
TMPリカーリング比率は25%（対前年同期+3pt） ※FY2025-3Qの実績
- 2024年度は初の営業利益100億円を達成

ターボ分子ポンプとは

- 高性能真空ポンプの一種。主に半導体製造装置に使用
- 半導体需要の拡大にともない売上高増加
- 世界シェアトップクラスを誇る。

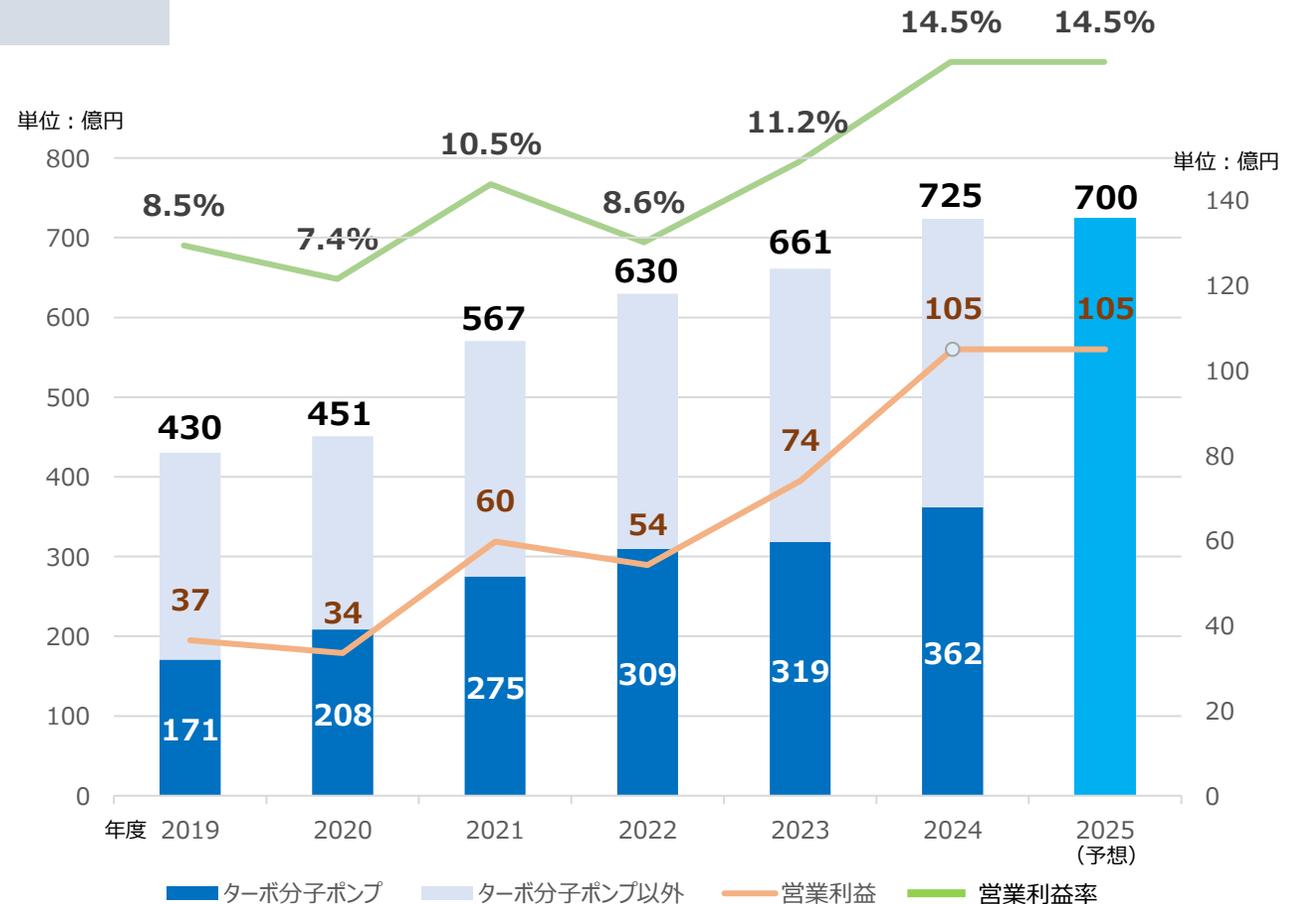


ターボ分子ポンプ



ロータ翼
(高速回転し真空状態を作り出す)

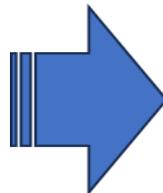
産業セグメント業績推移



③ インダストリー領域-“産業の発展、安心・安全な社会の実現”への貢献- 保有技術を新たに半導体市場へ展開

■ 当社の強み：

TMPビジネスで築いた顧客との信頼関係
世界に広がるサービス体制



■ 分析計測製品の半導体市場への展開

- ✓ 医薬品業界向け超純水分析装置を展開
- ✓ 食品・ガス分析向けの質量分析システムの展開

- 半導体製造前工程で使用される超純水に不純物が含まれると、ウェハー表面に欠陥や製品の性能低下の原因
- 半導体製造において、Airborne Molecular Contaminants (AMC) は製品の品質や歩留まりへの影響大
- 共に当社事業・技術との親和性が高い分野で、数年内に事業規模30億円へ

- 半導体製造前工程の約30%が超純水を使用した洗浄工程
- 超純水の品質管理は製造プロセスの精度維持に不可欠
- 超純水の効率的な再利用（回収水）
- PFAS分析を含めた排水管理などで環境負荷低減

- 確実な定性・定量モニタリングで製造環境において微細な汚染物質AMCの適切な管理は需要
- 揮発性有機化合物（VOC）などは、ウェハー表面への付着や光学装置の汚染を引き起こし、製造プロセスの精度を低下

水
分
析

超純水のモニタリング



純水用オンライン全有機体炭素計

医薬品業界で製薬用水の測定、洗浄バリデーション
医薬品開発の現場で実績あり

環境負荷低減



PFAS分析
液体クロマトグラフ質量分析システム
排水管理用
オンライン用水質分析計

A
M
C
分
析

揮発性有機化合物(VOC)などモニタリング



ガスクロマトグラフ質量分析システム
GCMS-QP2050

エンジニアリング機能強化に向けて他社との協業も視野に入れる。

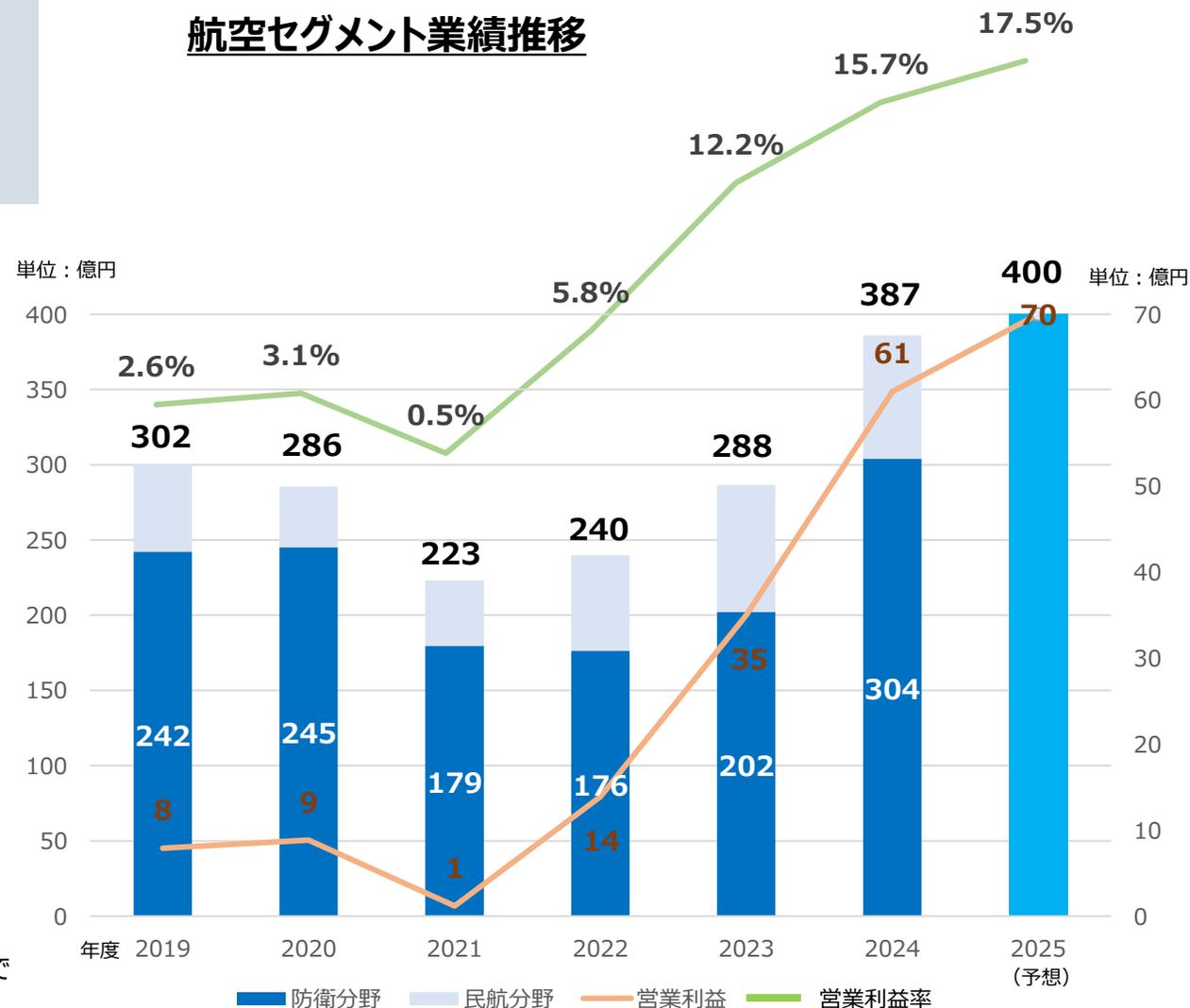
③ インダストリー領域-“産業の発展、安心・安全な社会の実現”への貢献- 安心・安全を作り出す精密加工技術

- 先端技術と高度な精密加工技術で航空機用装備品を提供
- 防衛分野：防衛力強化方針により需要拡大
- 民航分野：航空旅客需要増により需要拡大
- 収益性は大幅改善。2025年度は過去最高売上高を目指す。

売上高比率



航空セグメント業績推移



④ 業績&株価

④ 業績&株価

2024年度通期決算 業績サマリー

	単位：億円	通期		前期比		
		FY2023	FY2024	増減額	増減率	
業績	売上高	5,119	5,390	+272	+5%	(除中国：+9%)
	営業利益	728	717	▲10	▲1%	
	営業利益率	14.2%	13.3%	▲0.9pt		
	経常利益	769	720	▲49	▲6%	為替影響による 営業外損益 ▲38億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	570	538	▲33	▲6%	
	ROE	12.5%	10.9%	▲1.6pt		
	ROIC	11.0%	10.0%	▲1.0pt		
為替	平均為替レート：米ドル(円)	144.66	152.63	+7.97	+6%	
	ユーロ(円)	156.85	163.78	+6.93	+4%	
	研究開発費	215	289	+74		
	設備投資額	225	229	+5		
	減価償却費	186	199	+13		

為替影響額

(売上高、営業利益は平均為替レートで、営業外損益は期末レートで計上)

売上高： +146億円 営業利益： +58億円

経常利益・純利益：

営業外損益 ▲38億円

FY2023：為替差益+24億円 (期末レート：FY22期末・1ドル134円→FY23期末・151円)
 FY2024：為替差損▲15億円 (期末レート：FY23期末・1ドル151円→FY24期末・150円)

④ 業績&株価

2025年度通期業績予想

- 売上高 5,550億円：想定為替レート変更により、100億円上方修正
- 営業利益 720億円：増収により押し上げられるものの、M&A費用など成長投資の増加により据え置く

売上高	5,550 億円	対前期 + 160 億円	対11月公表 + 100 億円
営業利益	720 億円	対前期 + 3 億円	対11月公表 0 億円
経常利益	720 億円	対前期 0 億円	対11月公表 0 億円
当期純利益	540 億円	対前期 + 2 億円	対11月公表 0 億円

通期想定為替レート

米ドル：150円
ユーロ：174円

研究開発費

305 億円
対前期 対11月公表
+**16** 億円 +**5** 億円

設備投資

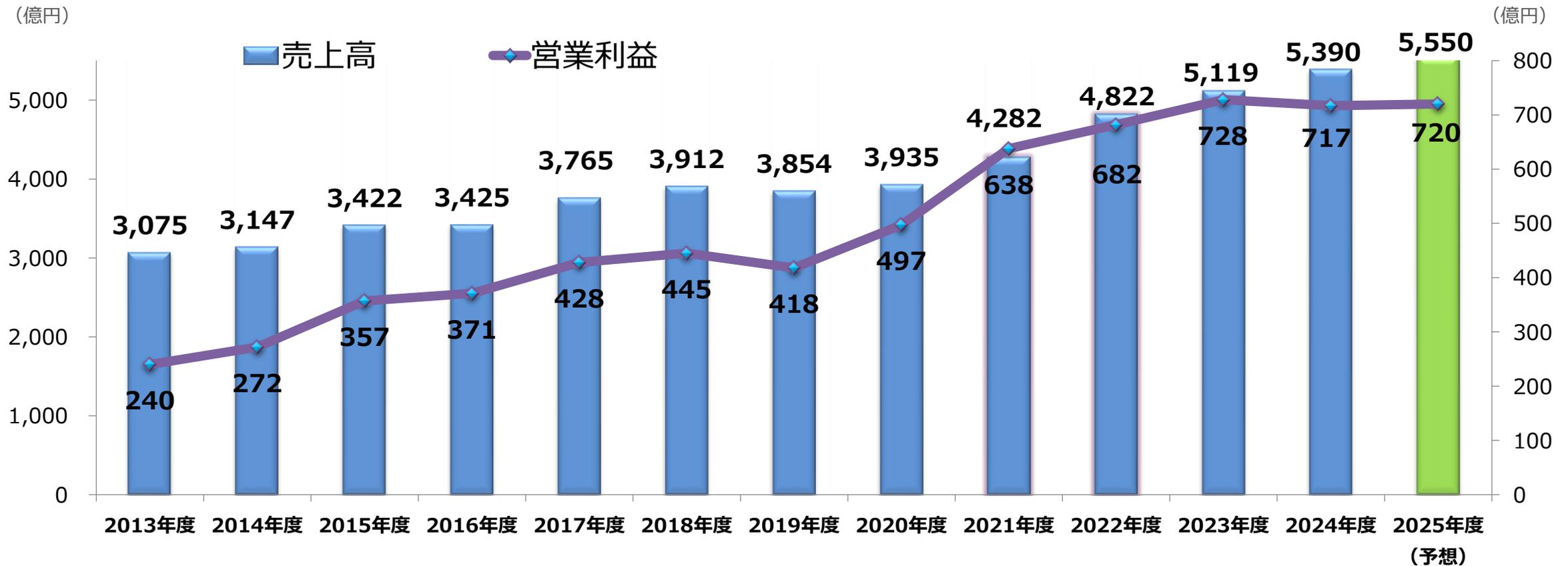
250 億円
対前期 対11月公表
+**21** 億円 -

減価償却

200 億円
対前期 対11月公表
+**1** 億円 -

④ 業績&株価 業績推移

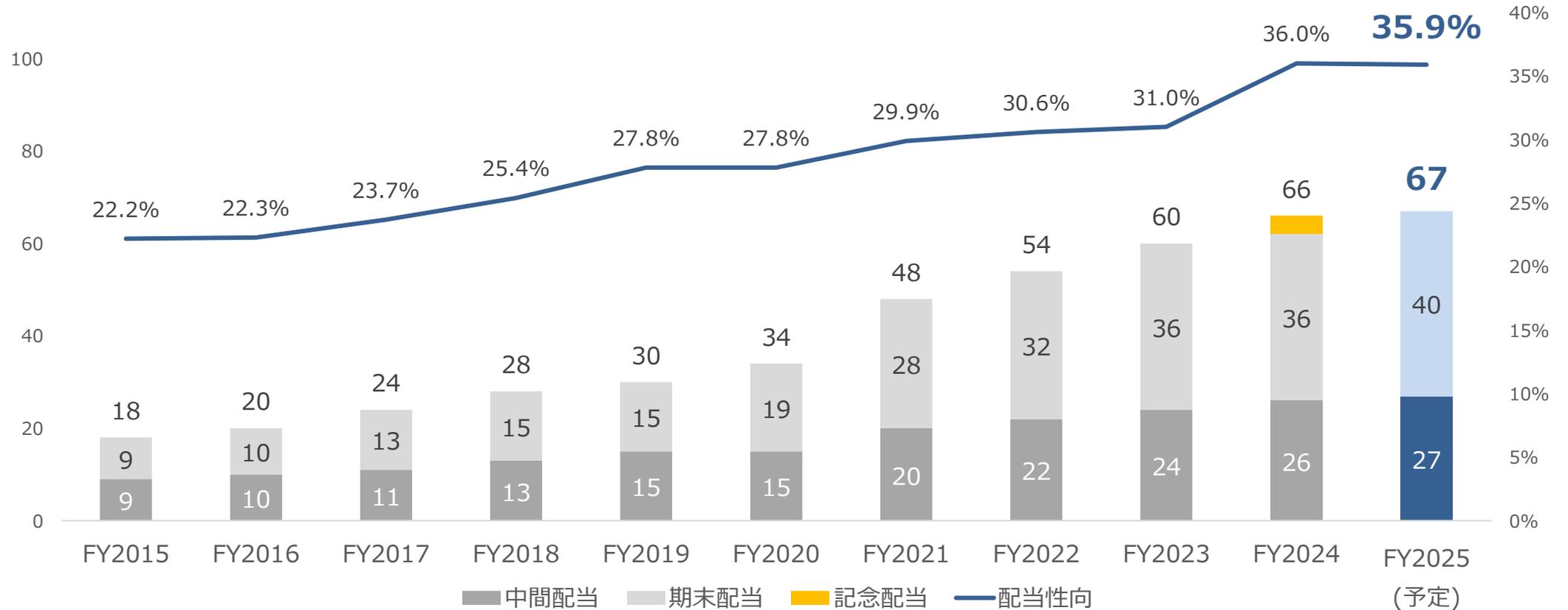
- 米国関税の世界経済・当社事業への影響と為替レートを見直し、業績予想を上方修正。5年連続で過去最高の売上高を目指す。
- 10年間の年平均成長率（2015～2024年度のCAGR） 売上高：5% 営業利益：8%
- 海外売上高比率：2015年度50.9% → 2024年度56.5%



④ 業績&株価 株主還元


配当金
11期連続増配


配当性向
 2025年度は**35.9%**を予定



④ 業績&株価 株価推移

時価総額：約1.2兆円（2026年2月16日時点）

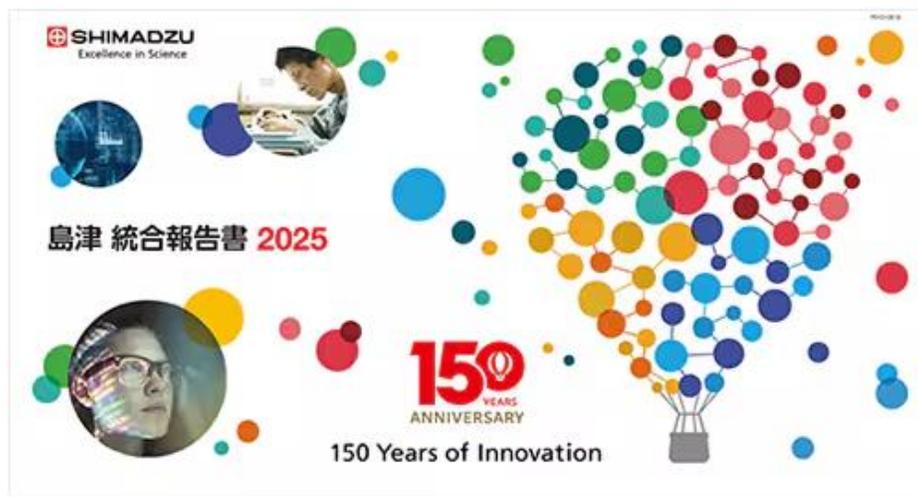


⑤ 最後に

⑤ 最後に IRサイトのご紹介

当社ウェブサイトにて統合報告書、決算資料や個人投資家向けイベントなど様々な情報を掲載しています。
ぜひご活用ください。

統合報告書



投資家向け情報



URL : <https://www.shimadzu.co.jp/ir/index.html>

🔍 島津 IR



⑤ 最後に

150周年を迎えて 島津製作所のこれから



1877年12月
人を乗せた軽気球の飛揚に成功

島津製作所は、1875年に創業してから
2025年3月31日で**満150歳**になりました。
今後も、ステークホルダーの要望に応える
“共有価値の創造”を通じて
プラネタリーヘルスを追求
してまいります。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

2026年3月期第3四半期期 ハイライト

第3四半期 増収増益

売上高・営業利益とも前年を上回って増加

- ・【売上高】 **1,424億円（前年同期比+7%）**：6期連続で3Q過去最高を更新
- ・【営業利益】 **187億円（前年同期比+11%）**：2期ぶりに3Q過去最高を更新

セグメント別

- ・計測：増収減益 / 売上高は3Q過去最高を更新 費用増により減益
- ・医用：増収増益 / 売上高は3Q過去最高を更新 利益22倍
- ・産業：増収増益 / 売上高・営業利益とも3Q過去最高を更新
- ・航空：増収増益 / 売上高・営業利益とも3Q過去最高を更新

通期目標

為替円安を反映し売上高を上方修正するものの、営業利益はM&A費用の増加および研究開発費の増加等を見込んで据え置く

【売上高】 **5,550億円（前期比 +3.0%）（11月公表値+100億円）**

【営業利益】 **720億円（前期比 +0.4%）（11月公表値を据え置く）**

2026年3月期第3四半期 連結 / 業績

	単位：億円	第3四半期(10月-12月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	1,330	1,424	+93	+7%
	営業利益	168	187	+18	+11%
	営業利益率	12.6%	13.1%	+0.5pt	
	経常利益	208	216	+9	+4%
	親会社株主に帰属する当期純利益	148	155	+6	+4%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	152.47	154.17	+1.70	+1%
	ユーロ(円)	162.63	179.43	+16.80	+10%
	研究開発費	71	70	▲2	
	設備投資額	61	50	▲11	
	減価償却費	48	53	+5	

為替影響額

売上高 : +18億円

営業利益 : ▲2億円

➡ 為替差損益 : ▲8億円

売上高、営業利益は平均為替レートで、
為替差損益は期末レートで計上

2026年3月期第3四半期 セグメント別損益

- 計測：増収減益 / 売上高は9期連続で過去最高を更新 営業利益は費用増により減少
- 医用：増収増益 / 売上高は過去最高を更新 営業利益も増加
- 産業：増収増益 / 売上高・営業利益ともに5期連続で過去最高を更新
- 航空：増収増益 / 売上高は3期連続、営業利益は4期連続で過去最高を更新

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比		FY2024 3Q	FY2025 3Q	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	873	918	+45	+5%	125	122	▲3	▲3%	14.3%	13.3%	▲1.1pt
医用機器	162	184	+22	+14%	1	12	+11	+22倍	0.3%	6.5%	+6.1pt
産業機器	174	189	+15	+9%	26	35	+9	+35%	14.9%	18.5%	+3.7pt
航空機器	100	120	+21	+21%	17	24	+7	+43%	16.8%	20.0%	+3.2pt
その他	21	13	▲9	▲40%	3	3	+0	+11%	10.6%	17.1%	+6.5pt
調整額	-	-	-	-	▲3	▲9	▲6	-	-	-	-
合計	1,330	1,424	+93	+7%	168	187	+18	+11%	12.6%	13.1%	+0.5pt